

## 研究機関で雇用する特別研究員-PD等の育成方針

東京農工大学は、持続発展可能な社会の実現・「地球をまわそう。」を理念に、農学、工学及びその融合領域における科学的探究を通じ、次の時代のあるべき姿を示し努力する全ての人を尊重し、人の価値を知的に社会的に最大に高める世界第一線の研究大学となることを目指している。この度、本学は、未来を担う優秀な若手人材である「日本学術振興会 特別研究員」を常勤教職員として雇用し、以下のとおり研究に専念できる環境や育成機会を提供することで、さらなる活躍を促すこととした。

### (1) 研究に専念できる環境の確保

今後、本学が受け入れる日本学術振興会 特別研究員 (PD、RPD、CPD) は、本学の常勤教職員「特任助手 (JSPS-PD、RPD、CPD)」として雇用する。特任助手 (JSPS-PD) 等は、福利厚生、諸手当等の待遇拡充と安定的な身分を獲得し、受け入れ教員の支援のもと研究に専念する。なお、すでに本学が受け入れ済みの日本学術振興会 特別研究員 (PD、RPD、CPD) についても、当人の意向を確認したうえで原則として雇用する。

### (2) 専門人材による研究支援の実施と新たな機会の提供

特任助手 (JSPS-PD) 等に対して、本学が保有する高度な共同利用機器の提供、URACによる研究費獲得支援・特許出願等支援、リサーチアドバイザーによる研究計画等への助言、若手研究者交流会による多様な研究者との交流機会の提供等を通じて、研究マネジメント能力や研究スキル等の向上を促す。また、本人の希望に応じて、GIR戦略的研究チーム、融合研究TAMAGOを始めとする学内横断的プロジェクト等への参画、ディープテック産業開発機構によるスタートアップ起業支援など、学内教員を対象とする様々な支援を提供する。

### (3) ダイバーシティとインクルーシブを実現する環境の提供

本学は、15年以上にわたり、多様な研究者が活躍できる環境整備を進めてきた。人事制度の面では、「テニュアトラック制度」を若手研究者登用の中核としており、本学在籍教員の約25%がテニュア取得教員またはテニュアトラック在籍教員である。このほか、教授への早期昇任制度である「キャリアチャレンジ制度」、女性教員雇用・育成制度である「キャリアデザイン制度」など、研究者が意欲と能力を十分に発揮できるような人事制度を整備・導入してきた。また環境整備の面では、府中・小金井両キャンパスへの保育所誘致、出産・育児・介護に携わる女性教員に対する研究支援員の配置（令和4年度から、すべての教員を支援対象として拡大済み）などの環境整備を進めてきた。特任助手 (JSPS-PD) 等に対しても、制度趣旨に合致する支援制度・環境を提供する。